

Scientific WorkPlace[®],
Scientific Word[®],
and
Scientific Notebook[®]

Version 5.5

インストールガイド

目次

はじめに	2
1 SWP, SW, SN 5.5J をインストールする前に	3
1.1 インストール前の確認事項	3
1.2 まだ旧バージョンがインストールされている	3
1.3 5.5J のデモ版を製品版に切り替える	4
1.4 PC の OS が Windows95/98/Me である	5
2 SWP, SW, SN 5.5J のインストール	7
3 ライセンスファイルの取得	12
3.1 インターネットを利用したライセンス登録	13
3.2 登録申請用のファイルを利用したライセンス登録	15
3.3 ライセンス状態の確認	17
4 タイプセット用環境設定と動作検証	18
4.1 英語文書用環境設定と動作検証	18
4.2 日本語文書タイプセット用 pL ^A T _E X のインストール	19
4.2.1 pL ^A T _E X のアンインストール	19
4.2.2 pL ^A T _E X のインストール	20
4.3 WinForme, pL ^A T _E X の動作確認	23
4.4 dviout の初期設定	24
4.5 SWP/SW と pL ^A T _E X の連携	26
4.6 日本語文書のタイプセット時の注意	27
4.6.1 保存形式について	27
4.6.2 文字コードについて	27
4.6.3 既存の SWP/SW 文書の扱い	27
5 追加情報	28
5.1 BaKoMa TrueType フォントの不具合	28
5.2 WMF2EPS	28
6 テクニカルサポート	29

はじめに

このマニュアルは *Scientific WorkPlace* (SWP), *Scientific Word* (SW) および *Scientific Notebook* (SN) のバージョン 5.5J (Build2934 日本語版) のインストール, ライセンス取得, 動作確認の方法およびフォント不具合の修正などを解説します。5.5J の主な新機能は次の通りです。

- 日本語文書用新ドキュメントクラス jsarticle, jsbook のサポート [SWP, SW]
従来の jarticle, jbook, jreport に比べ種々の改良が施されている他, フォントサイズや用紙サイズの選択肢の拡大, スライド作成機能, 用紙設定の自動化機能等, 新たな機能が加わっています。
- Non-SWP/SW L^AT_EX フィルタのサポート [SWP, SW]
Native L^AT_EX コードの取り込み能力が大幅に強化されています。
- 数式処理機能の強化 [SWP, SN]
MuPAD3.1 数式処理エンジンのサポートにより, アニメーションを含むグラフィックス機能が一段と強化されています。
- スタイルファイルやシェルファイルの刷新 [SWP, SW, SN]

また SWP と SW には製品本体の他に, 日本語用タイプセットで使用する pL^AT_EX (Web2C-7.5.3 Kpathsea-3.5.3) と日本語文書のタイプセット結果 (DVI ファイル) をプレビューする dviout.exe (Ver.3.16), さらに Adobe Systems 社の Adobe Reader が収録されています。

セクション 1 は製品のインストール前に行う確認事項です。セクション 2 では製品のインストール方法を解説します。セクション 3 ではライセンス取得方法を解説します。セクション 4 では英語および日本語のタイプセットにおける動作確認方法, 製品付属の WinForme と pL^AT_EX のインストール方法, SWP および SW と pL^AT_EX との連携方法について解説します。また日本語文書のタイプセット時における注意事項も記載されています。pL^AT_EX をすでにお持ちの場合, pL^AT_EX のインストールは慎重に行う必要があります。セクション 4 の該当する記述にご注意ください。

セクション 5 では日本語 PDF ファイルの作成方法, BaKoMa TrueType フォントの不具合, WMF2EPS に関する情報が記載されています。セクション 6 では製品の操作に関する学習方法とテクニカルサポートへの連絡について記載されています。

CD-ROM の作成にあたり, ご助言いただきました三重大学奥村晴彦氏に厚く感謝いたします。また, pL^AT_EX および dviout の収録にあたりご協力いただきました近畿大学角藤 亮氏ならびに, 東京大学 大島利雄氏にも心より感謝いたします。pL^AT_EX の Windows 版インターフェイス WinForme は株式会社ライトストーンによって開発されたプログラムです。T_EX ファイルを, WinForme を通して pL^AT_EX でタイプセットし, 画面に表示します。さらに dviout.exe を使用した DVI ファイルのプレビュー, dvipsk.exe を使用した PS ファイルへの変換, dvi2pdfm.exe を使用した PDF ファイルへの変換などが可能です。

Scientific WorkPlace, Scientific Word, Scientific Notebook は MacKichan Software 社の登録商標です。Maple は Waterloo Maple 社の登録商標です。MuPAD は SciFace 社の商標です。Windows は Microsoft 社の登録商標です。Adobe, Acrobat は Adobe Systems 社の商標です。

本書は *Scientific WorkPlace* と pL^AT_EX を利用して作成しました。

株式会社 ライトストーン
2005 年 10 月

1 *Scientific WorkPlace, Scientific Word, Scientific Notebook 5.5J* をインストールする前に

製品のすべての機能を利用するためには、SWP、SW、SN をインストール後にライセンスファイルを取得する必要があります。ライセンスファイルは PC に固有の ID 番号と、プログラムのシリアル番号から生成される 1 種のパスワードファイルです。

ライセンス許諾条件として同一の場所での複数起動を許可していません。ですからライセンスファイルは一人のユーザに対して会社や学校などの職場用、自宅用、モバイル用のノートパソコンの 3 台分取得可能です。PC の修理や買い替えで実質的に 4 つ目のライセンスファイルが必要になった場合はテクニカルサポートへご連絡ください (29 ページを参照)。 unnecessary になるライセンス情報を削除し、新しくライセンスファイルを取得できるようにします (この作業を終了するのに数日必要です)。その際、 unnecessary になるライセンス情報が記載されたライセンスファイル (license.lic) が必要となります。

Important 本書では *Scientific WorkPlace* を例にします。SW、SN を購入されたお客様は該当の製品に読み替えてください。また製品はデフォルトのままインストールした状態で説明します。つまり製品のインストール先は c:\swp55 または c:\sw55 です。本書中にあるプログラムフォルダという言葉はこのフォルダのことを指します。ただし、*Scientific Notebook* の場合は c:\Program Files\Scientific Notebook となります。

1.1 インストール前の確認事項

次のいずれかの項目に該当するユーザはプログラムのインストール前に適切な操作を行い、プログラムのインストールを実行してください。

- まだ旧バージョンがインストールされている (次のセクションへ)
- 5.5J のデモ版を製品版に切り替える (4 ページへ)
- PC の OS が Windows95/98/Me である (5 ページへ)

これらの項目に該当しないユーザは 7 ページへ進み、プログラムのインストールを開始してください。

Note SWP/SW version 5 の PDF タイプセット機能を使用される場合は、SWP/SW のインストールに先立ち Adobe Reader もしくは Adobe Acrobat のインストールを実施してください。機種によっては

C:\IBMTTOOLS\APPS\Acrobat

といったフォルダ内に adobe.exe といった実行プログラムが入っていることもありますが、これは Adobe Reader のインストーラであって Adobe Reader そのものではありません。まず adobe.exe を起動し Adobe Reader のインストールを先に行ってください。

1.2 まだ旧バージョンがインストールされている

製品の旧バージョンと最新バージョンを 1 台の PC に同時にインストールしないようにしてください。SWP、SW、SN は Windows へのフォントの登録を行います。最新バージョンをインストールすると旧バージョンでインストールしたフォントが上書きされますので、旧バージョンでのタイプセットなどで文字化けが発生する可能性があります。また未知の不具合が発生する原因にもなりえます。旧バージョンをアンインストールしてから 5.5J をインストールしてください。旧バージョンのアンインストールはコントロールパネルから行います。次の手順にしたがって操作してください。

1. Windows のスタートメニューから「設定：コントロールパネル」を選択します。

2. アプリケーションの追加と削除 (Windows XP ではプログラムの追加と削除) を選択します。
3. インストールされている旧バージョンを選択して追加と削除ボタン (Windows XP では変更と削除ボタン) をクリックします。アンインストールプログラムが開始されたら、画面の指示にしたがって操作します。

Note プログラムの追加と削除ダイアログのリストにプログラム名が表示されていない場合

Windows のスタートメニューから製品を起動できるのに、追加と削除ダイアログボックスに旧バージョンが表示されていない場合があります。これを正常な状態にして旧バージョンにアンインストールするためには、もう一度旧バージョンの CD-ROM から上書きインストールします。

Important 5.5J に搭載している数式処理エンジンは MuPAD です。旧バージョンで Maple をご利用になっている方は 5.5J でも Maple を利用することができます。旧バージョンをアンインストールする前に、次の操作手順に従って Maple を利用できるようにします。フォルダ名やバージョンはお持ちのバージョンによって異なりますので読み替えてください。SWP を例にします。旧バージョンは 4.1 を例にします。

1. c:\swp41 フォルダにある mapleoem.dll と c:\swp41\Maple フォルダごとを旧バージョンのアンインストールや 5.5J のインストールで影響を与えないデスクトップやマイドキュメントなどのフォルダにコピーします。
2. 下記の手順に従って旧バージョンをアンインストールし、5.5J をインストールします。
5.5J をデフォルトの設定でインストールするとプログラムフォルダとして c:\swp55 というフォルダが作成されます。
3. c:\swp55 に先程コピーした mapleoem.dll と Maple フォルダを移動します。
4. SWP を起動します。
5. 「ツール：ユーザ設定」を選択し、ファイルタブを選択します。
6. フォルダグループのファイルの種類から Maple ライブラリを選択し、c:\swp55\Maple と設定します (デフォルトでは設定されています)。
7. 同じくフォルダグループのファイルの種類から今度は Maple カーネルを選択し、c:\swp55 と設定します (デフォルトでは設定されています)。
8. OK ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。
9. 「ツール：数式処理」を選択し、計算エンジンの設定タブで Maple に変更し、OK ボタンをクリックします。

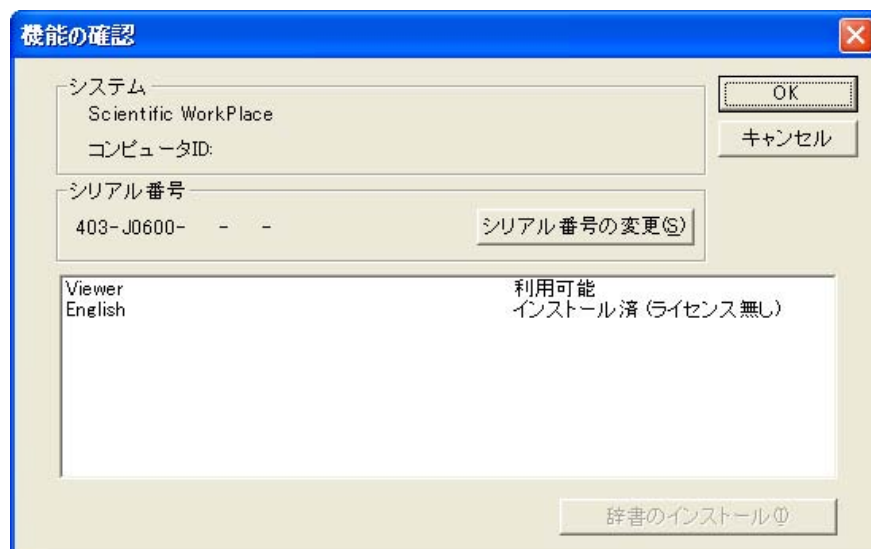
エラーが表示されない場合、Maple のコピーに成功したことになります。

1.3 5.5J のデモ版を製品版に切り替える

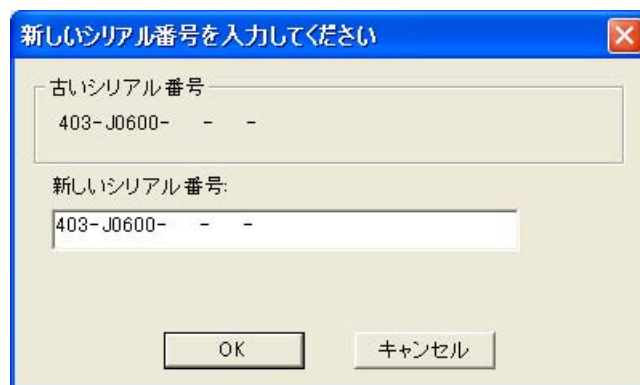
5.5J のデモ版を既にインストールしてご利用になっていた状態であれば、製品版をインストールするためにデモ版をアンインストールする必要はありません。製品版のライセンスファイルを取得するだけで、デモ版から製品版へ移行できます。

1. SWP, SW, SN が終了している状態で、Windows のエクスプローラなどからプログラムフォルダに移動します。
2. プログラムフォルダにある Licenses フォルダから、デモ版を利用する際に取得したライセンスファイル license.lic を削除します。

3. 製品を起動し、「ヘルプ：機能の確認」を選択します。



4. シリアル番号の変更ボタンをクリックします。表示されるダイアログボックスに製品版のシリアル番号を入力します。CD-ROM ケースに製品版のシリアル番号シールが貼られています。



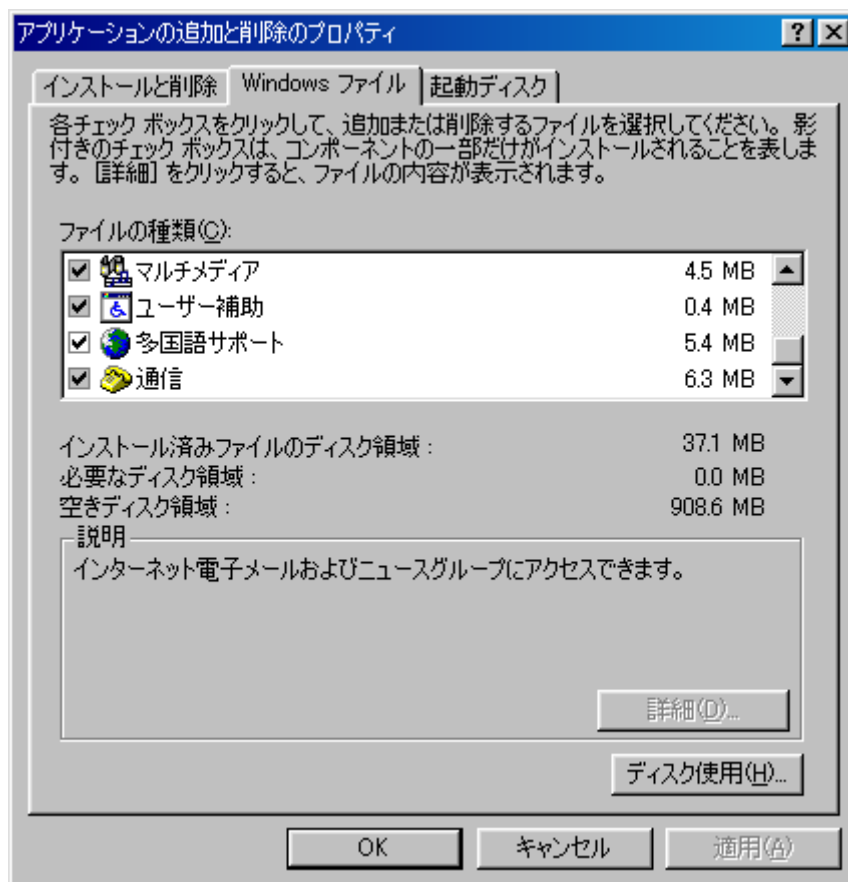
5. OK ボタンを 2 回クリックして操作画面に戻ります。
6. 「ヘルプ：登録」を選択して、デモ版用のライセンスファイルを取得した時と同じ要領で製品版のライセンスファイルを取得します。

1.4 PC の OS が Windows95/98/Me である

これらの OS 上にプログラムをインストールする場合は Windows のファイルである「多言語サポート」が既にインストールされていることを確認してください。このファイルがないと記号などが文字化けする原因になります。

1. Windows のスタートメニューから「設定：コントロールパネル」を選択します。

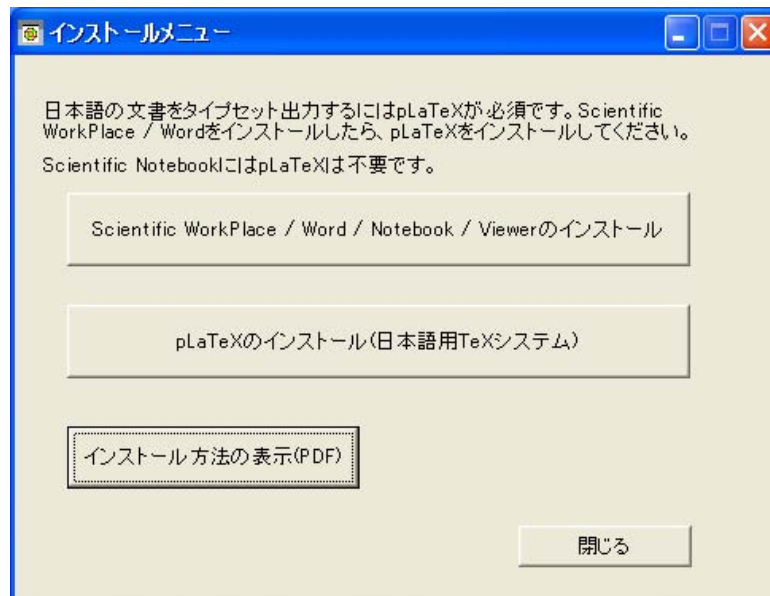
2. アプリケーションの追加と削除を選択します。アプリケーションの追加と削除ダイアログボックスで「Windows ファイル」タブを表示します。



3. 「多言語サポート」の項目がチェックされていることを確認します。チェックされていない場合はチェックしてください。既にこのファイルがインストールされている場合は OK ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。新たにチェックして OK ボタンをクリックすると、Windows の CD-ROM を要求する場合があります。PC にインストールした OS の CD-ROM を用意し、画面の指示にしたがって、操作してください。必要な CD-ROM が見つからない場合は PC のメーカーに問い合わせてください。

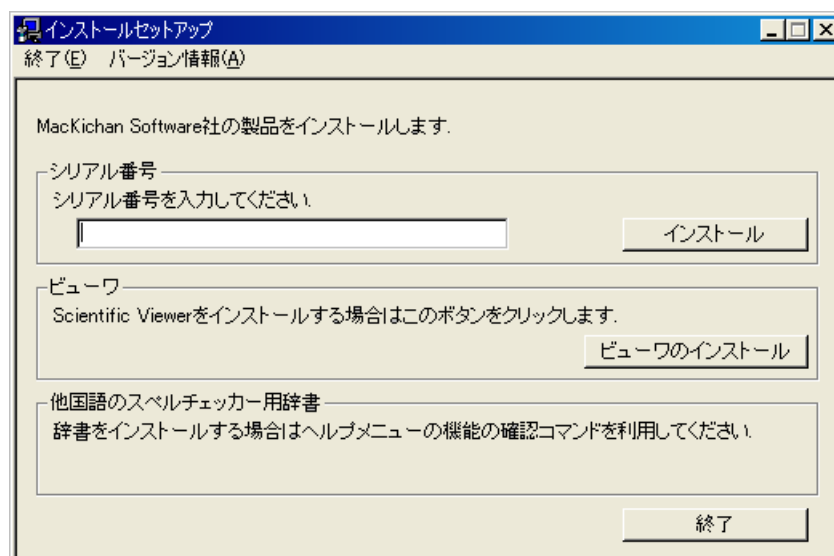
2 Scientific WorkPlace, Scientific Word, Scientific Notebook 5.5J のインストール

製品 CD-ROM には SWP/SW/SN 本体のほかに WinForme と pLaTeX の実行環境, マニュアルを表示するための Adobe Reader などが収録されています。製品 CD-ROM をドライブにセットすると、インストールするプログラムを選択するためのメニュー画面が表示されます。



このダイアログボックスが表示されない場合は、Windows のエクスプローラなどを使って製品 CD-ROM にある SWPInst.exe をダブルクリックします。ダイアログボックスが表示されましたら、2 番目の製品インストールの説明がある欄のインストールボタンをクリックします。

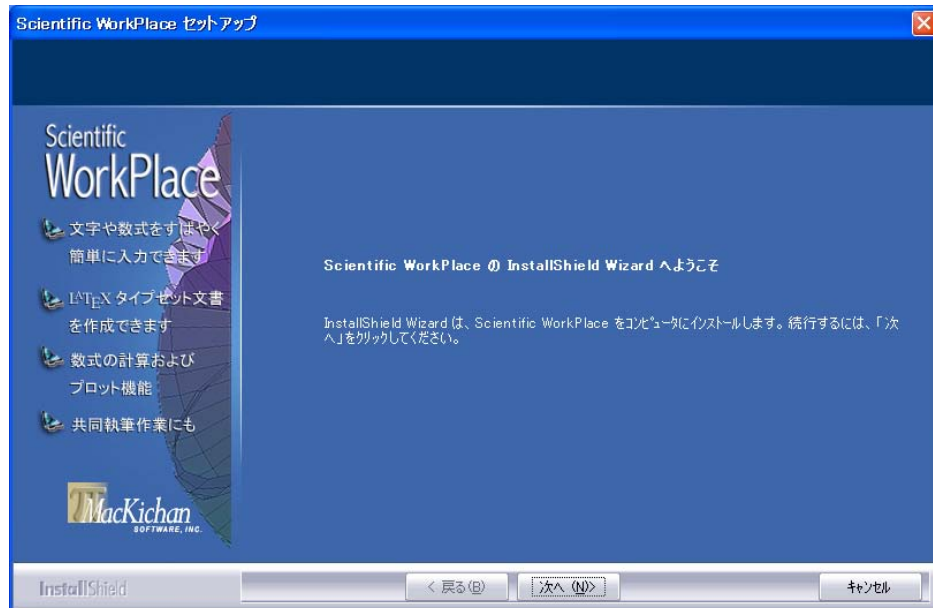
1. インストールセットアップ



購入した製品のシリアル番号を入力します。そしてインストールボタンをクリックします。正しいシリアル番号であればインストーラが起動します。このダイアログが表示されない場合は製品 CD-ROM の mackichan フォルダにある Setup.exe をダブルクリックします。

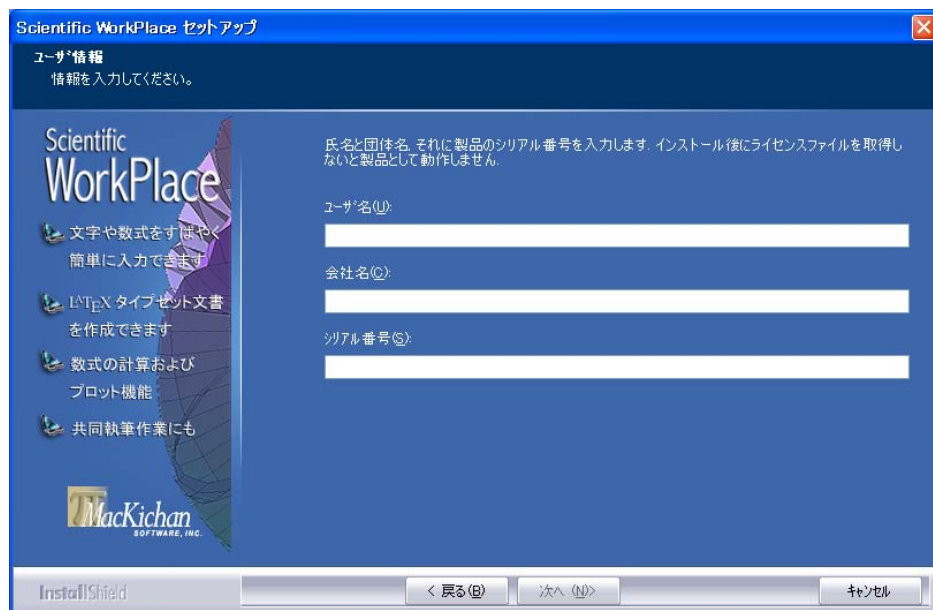
2. 初期画面

「次へ」のボタンをクリックします。



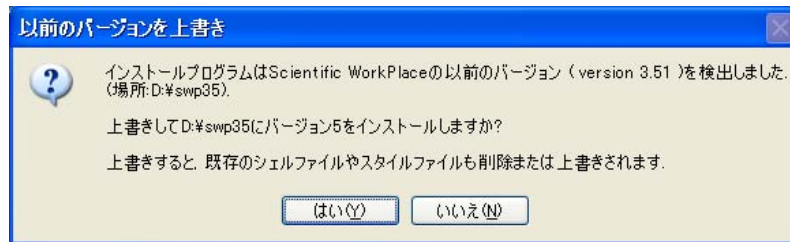
3. ユーザ情報

ユーザ情報のダイアログにユーザ名、会社名、シリアル番号が表示されます。誤りがあれば、この画面で訂正します。

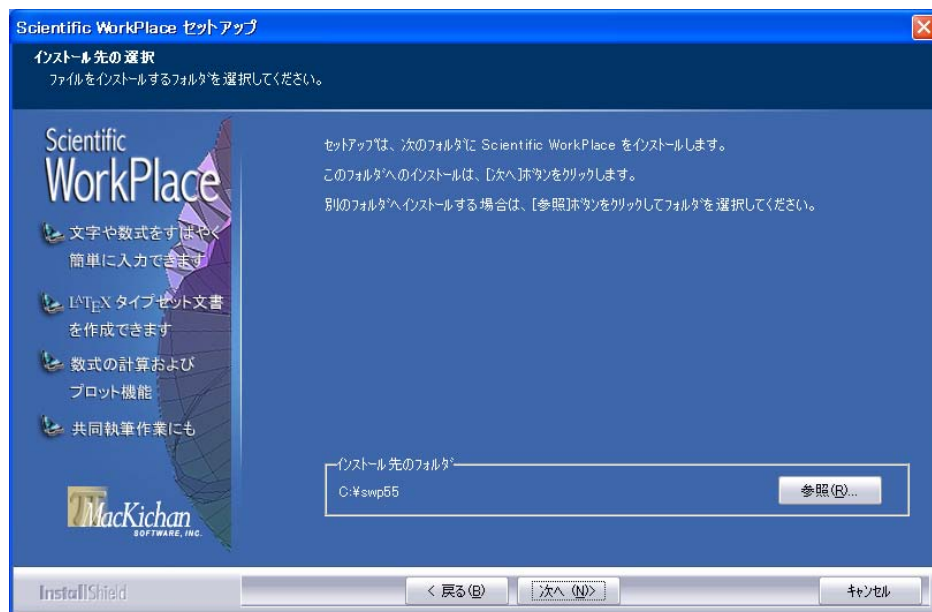


4. インストール先の選択

Important 旧バージョンをアンインストールせずにインストールを始めると次のダイアログボックスが表示されます。3 ページにあるように、バージョンが混在すると不具合が発生する原因となりますので、5.5J のインストールを中断し、旧バージョンをアンインストールしてから 5.5J をインストールしてください。



インストールするフォルダを選択します。原則としてデフォルトの `c:\swp55` を変更しないでください。例えば、これを通常プログラムをインストールする Program Files の下に変更すると、SWP や SW の起動と文字入力にはできますが、タイプセット機能の実行に支障が生じます。T_EX システムでフォルダ名に使用できるのは半角英数字のみです。また半角スペースを入れることもできません。デフォルトのインストール先を推奨します。ただし、SN にはタイプセット機能がありませんので、デフォルトのインストールフォルダは Program Files の下になります。



5. セットアップタイプ

セットアップには 3 つの種類があります。「カスタム」はインストールするコンポーネントの意味を十分理解している上級ユーザ向けのオプションです。デフォルトの「標準」が、「フルインストール」を選択します。「フルインストール」では次の 3 つのファイルグループが「標準」に追加されます。

- * BibDB... 文献目録の作成で利用するデータベースプログラム。手作業で文献目録を記述する場合は不要です。標準インストールでも BibT_EX を使用した文献目録の作成は可能です。
- * T3 ユーティリティ... 本プログラムの前身となるプログラムです。T3 で作成したデータファイルの変換用プログラムです。T3 を利用したことのない本製品のユーザであれば基本的には不要です。
- * Omega サポートファイル... 一つの文書に多言語を入力し、それをコンパイルして DVI ファイルを作成する Omega の関連ファイルです。英語と日本語の論文だけを作成する場合には不要です。



6. プログラムフォルダの選択

このダイアログボックスでは、Windows のスタートメニューにあるプログラムへ登録するフォルダ名を入力します。基本的にはデフォルトのまま「次へ」ボタンをクリックします。実際のインストールが開始されます。



7. インストール

インストールに際しては大量のファイルをコピーします。処理が停止しているように見える部分もありますが、しばらくお待ちください。キャンセルボタンをクリックするとインストールが中断されてしまいますので、ご注意ください。

拡張子 .dvi のファイルが dviout などの他のアプリケーションと関連付けされている場合に、それを TrueT_EXPreviewer に切替えるかどうかを確認するダイアログが表示されます。TrueT_EX を用いた欧文書の作成が主体になる場合は「はい」を、一方、pL^AT_EX を用いた日本語文書の作成が中心になる場合は「いいえ」を指定してください。



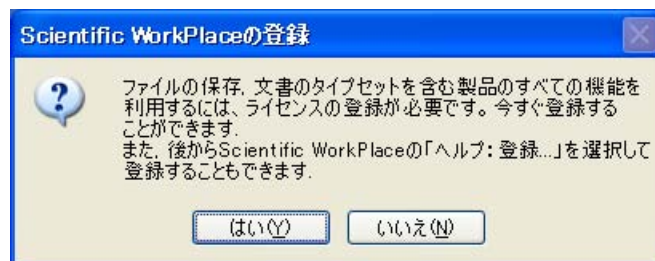
Note インストール中にエラーメッセージが出た場合

インストール中に、「フォントがロックされているので、目的のフォントをインストールできません」というメッセージが表示されたら、この問題を解決して再度製品を上書きでインストールする必要があります。この問題が発生してもとりあえず、インストールを最後まで終了させます。途中で無理に電源を切ったりすると、他のトラブルを引き起こす場合があります。

Windows95/98/Me の場合、Windows に付属の検索機能で「ttfCache」というファイル（拡張子はありません）を検索します。普通は C ドライブの Windows フォルダにあります。そしてこれを削除して、PC を再起動します。Windows は PC の再起動時にフォントの再構成を行います。Windows のフォントに関するエラーおよび Windows 全般に関するご質問は Microsoft 社またはお使いのコンピュータのメーカーにお問い合わせください。

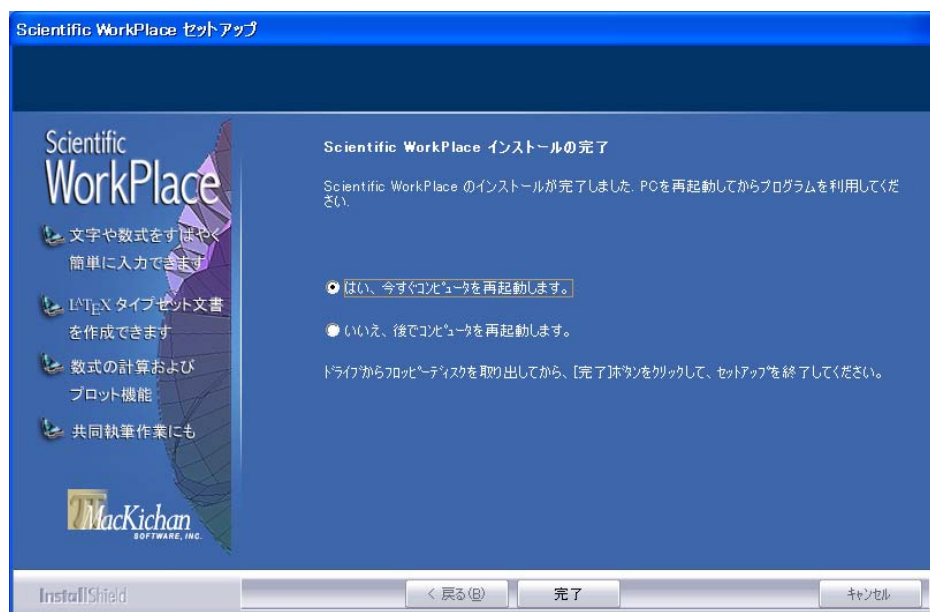
8. ライセンスの登録

製品のインストール終了直前、つまりコンピュータを再起動する前に次のメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックするとライセンスを登録することができます。ライセンスファイルの取得方法については 12 ページを参照してください。「いいえ」ボタンをクリックするとステップ 9 へ進みます。



9. 再起動

プログラムのインストールが終了すると、再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。再起動してからでないとプログラムを利用できませんので再起動してください。



3 ライセンスファイルの取得

ここでは SWP を例にライセンスファイルの取得方法を説明します。インターネットに接続可能な環境では、旧バージョンに比べてライセンスファイルの取得が簡単になりました。インターネットを利用してライセンスファイルを取得する方法を推奨します。

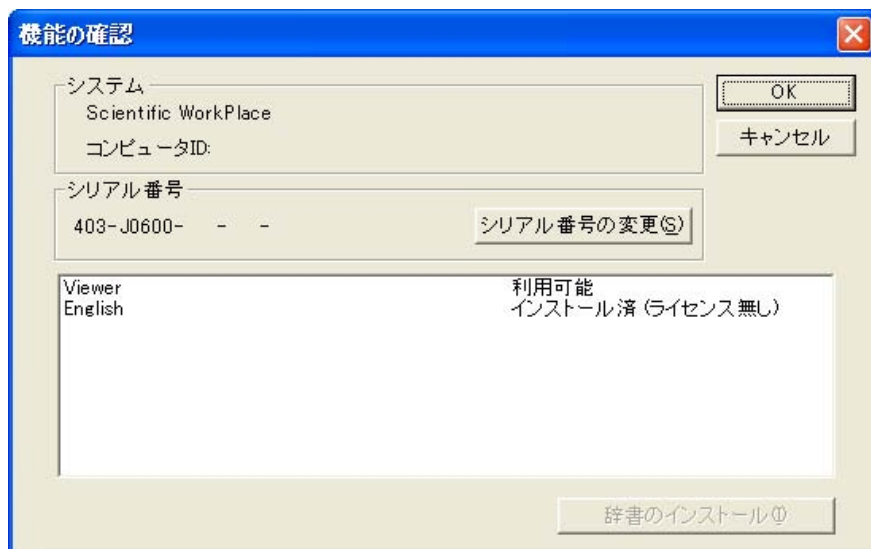
インストール完了後に PC を再起動し、Windows のスタートメニューからプログラムを選択し、インストールした製品を選択します。11 ページの登録ダイアログボックスで「いいえ」をクリックしてライセンスの登録を済ませていない場合、ライセンスファイルがまだ取得されていないので次のような警告メッセージが表示されます。



このメッセージが表示されたら、とりあえず「いいえ」ボタンをクリックして警告メッセージの詳細を飛ばします。すると製品が起動します。この状態では *Scientific Viewer* と同程度の機能しかありません。文書を開くことはできますが、例えば次の機能が利用できません。

1. 文書を保存できません。
2. タイプセットメニューが表示されません。したがって L^AT_EX コンパイルができません。
3. 画像として選択部分をエクスポートする機能が利用できません。
4. 他のシステムで作成した文書のインポート機能が利用できません。

また「ヘルプ：機能の確認」を選択しますと、現在利用できる機能の一覧が表示されます。ライセンスファイルを取得していない状態では次のダイアログボックスで示す機能しか利用できません。



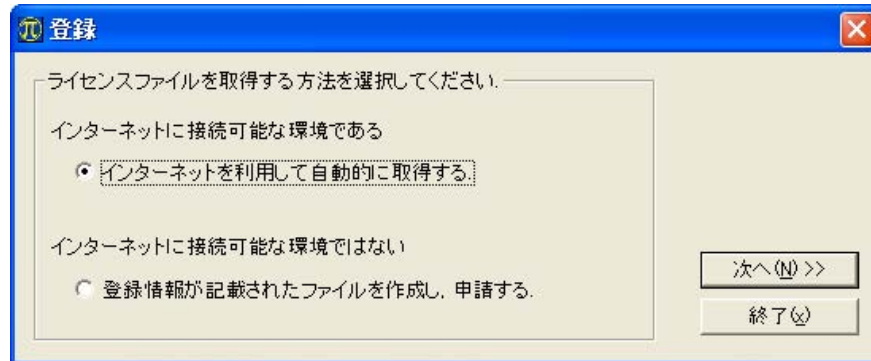
OK ボタンをクリックします。ライセンスファイルを取得すると、このダイアログボックスに利用可能な機能の一覧がリストアップされます。

それではライセンスファイルを取得します。まずインターネットを使った方法をご紹介します。次に登録申請用ファイルを作成してライセンスファイルを取得する方法を紹介します。

3.1 インターネットを利用したライセンス登録

Note インターネットの設定（ファイアウォールなど）によっては、ライセンスサーバにアクセスできないことがあります。その場合は次の「登録申請用のファイルを利用したライセンス登録」を参照してください。

1. 11 ページの登録ダイアログボックスで「はい」ボタンをクリックした場合、または製品の「ヘルプ：登録」を選択すると、次のダイアログボックスが表示されます。



登録

ライセンスファイルを取得する方法を選択してください。

インターネットに接続可能な環境である

☒ インターネットを利用して自動的に取得する。

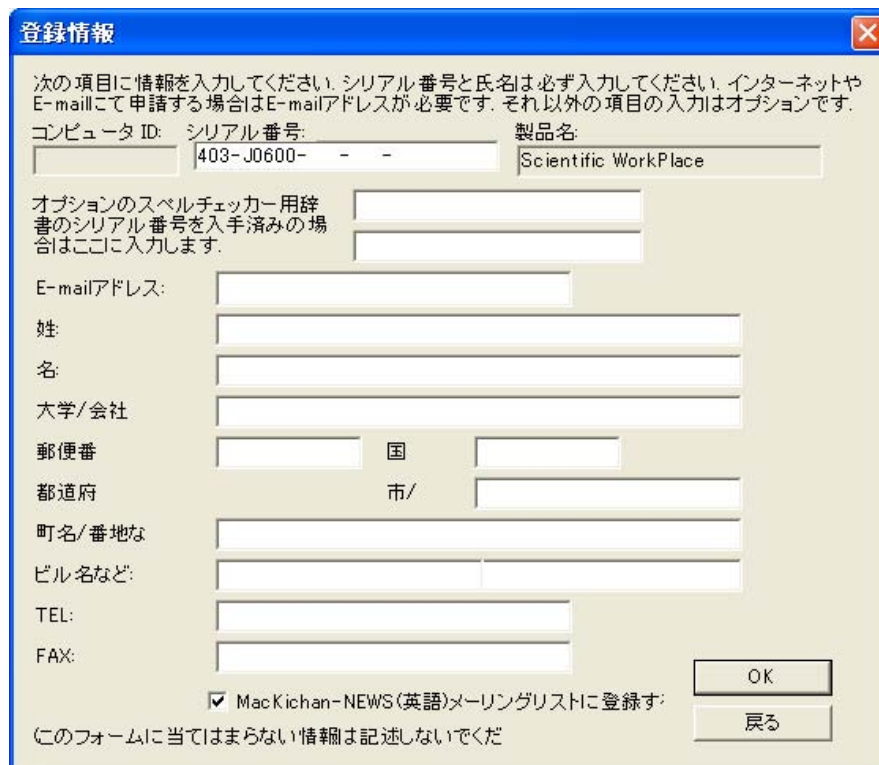
インターネットに接続可能な環境ではない

☐ 登録情報が記載されたファイルを作成し、申請する。

次へ(N) >>

終了(X)

2. 「インターネットを利用して自動的に取得する」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。
3. 登録情報ダイアログボックスが表示されます。



登録情報

次の項目に情報を入力してください。シリアル番号と氏名は必ず入力してください。インターネットやE-mailにて申請する場合はE-mailアドレスが必要です。それ以外の項目の入力はオプションです。

コンピュータ ID: シリアル番号: 製品名:

403-J0600- - - Scientific WorkPlace

オプションのスペルチェッカー用辞書のシリアル番号を手入力の場合はここに入力します。

E-mailアドレス:

姓:

名:

大学/会社:

郵便番号: 国:

都道府県: 市/:

町名/番地:

ビル名など:

TEL:

FAX:

☒ MacKichan-NEWS(英語)メーリングリストに登録する

このフォームに当てはまらない情報は記述しないでください

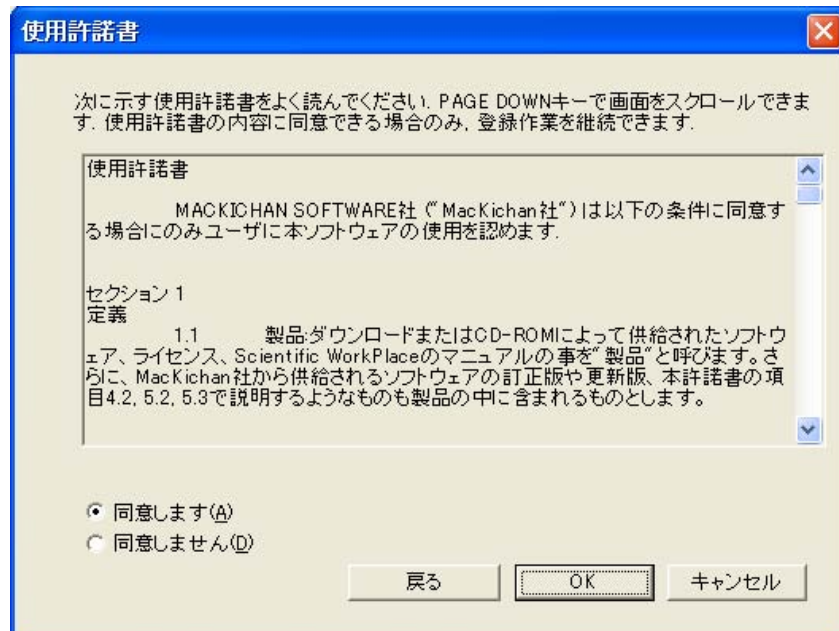
OK

戻る

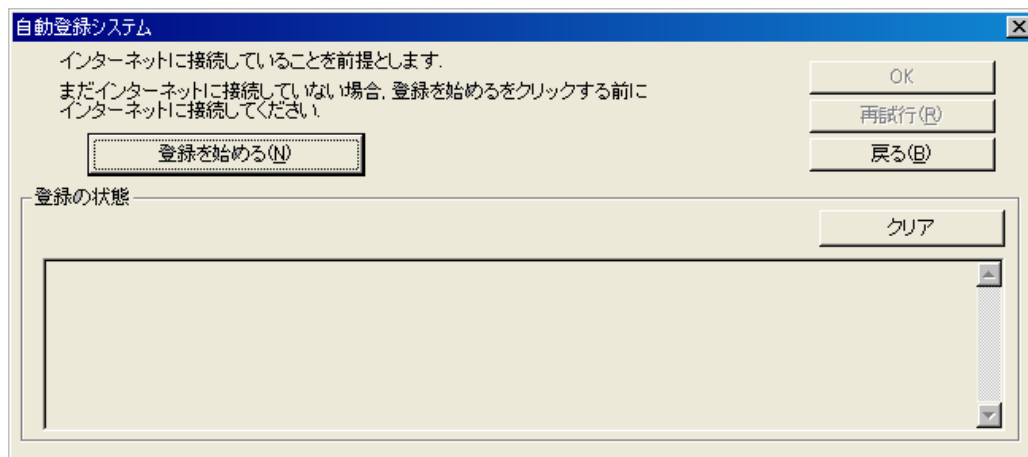
Note 実際にはコンピュータ ID、シリアル番号は入力されています。

登録情報ダイアログボックスに必要な情報を入力します。日本語、英語のどちらで入力してもかまいません。必要な情報を入力したら OK ボタンをクリックします。

4. 使用許諾書が表示されます。使用許諾をよく読んだ上で「同意します」を選択して OK ボタンをクリックします。

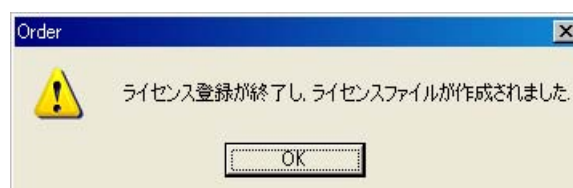


5. 自動登録システムダイアログボックスが表示されます。



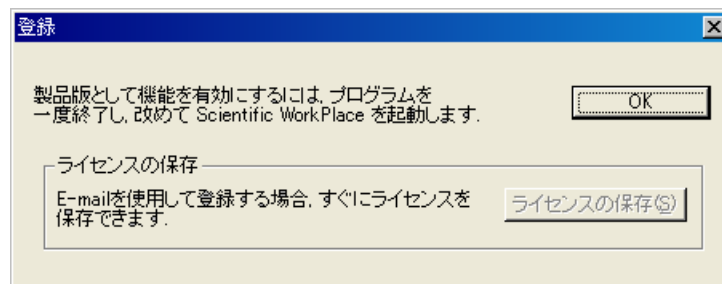
「登録を始める」ボタンをクリックする前にインターネットに接続してください。インターネットに接続せずにこのボタンをクリックするとエラーとなります。インターネットへの接続が済みしたら、「登録を始める」ボタンをクリックします。ライセンスサーバと接続し、入力したユーザ情報を基にしてライセンス登録し、ライセンスファイルを作成します。

6. 次のメッセージが表示されたらライセンスの登録とライセンスファイルの取得に成功したことになります。



OK ボタンをクリックすると自動登録システムを終了し、次のメッセージが表示されますので OK ボタンをクリックして閉じてください。このメッセージにあるように、作成されたライセンスファイルを有

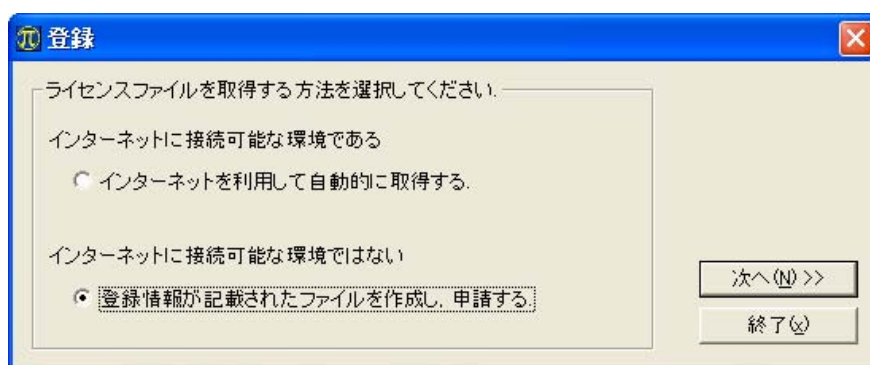
効にして製品のすべての機能を有効にするには、一度製品を終了して製品を再起動します。Windows を再起動する必要はありません。



ライセンスファイルが取得できた場合はセクション 3.3 に進んでください。ライセンスファイルの取得に失敗した場合は、そのエラーメッセージをメモした上でテクニカルサポートまでご相談ください。

3.2 登録申請用のファイルを利用したライセンス登録

インターネットに接続していない環境の場合や、ファイアウォールの設定などによって自動登録システムによるライセンス登録に失敗する場合、登録申請用のファイルを利用してライセンス登録を行うことができます。



1. 「登録情報が記載されたファイルを作成し、申請する」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。
2. 登録情報ダイアログボックスが表示されます。

登録情報

次の項目に情報を入力してください。シリアル番号と氏名は必ず入力してください。インターネットやE-mailにて申請する場合はE-mailアドレスが必要です。それ以外の項目の入力はオプションです。

コンピュータ ID: シリアル番号: 製品名:

オプションのスペルチェッカー用辞書のシリアル番号を手済みの場合はここに入力します。

E-mailアドレス:

姓:

名:

大学/会社:

郵便番号: 国:

都道府県: 市/町:

町名/番地:

ビル名など:

TEL:

FAX:

☒ MacKichan-NEWS(英語)メーリングリストに登録す

このフォームに当てはまらない情報は記述しないでください

OK 戻る

Note 実際にはコンピュータ ID, シリアル番号は入力されています。

登録情報ダイアログボックスに必要な情報を入力します。日本語、英語のどちらで入力してもかまいません。情報を入力したら OK ボタンをクリックします。

3. 使用許諾書が表示されます。使用許諾をよく読んだ上で「同意します」を選択して OK ボタンをクリックします。

使用許諾書

次に示す使用許諾書をよく読んでください。PAGE DOWNキーで画面をスクロールできます。使用許諾書の内容に同意できる場合のみ、登録作業を継続できます。

使用許諾書

MAC KICHAN SOFTWARE社（「MacKichan社」）は以下の条件に同意する場合にのみユーザに本ソフトウェアの使用を認めます。

セクション 1
定義

1.1 製品: ダウンロードまたはCD-ROMによって供給されたソフトウェア、ライセンス、Scientific WorkPlaceのマニュアルの事を「製品」と呼びます。さらに、MacKichan社から供給されるソフトウェアの訂正版や更新版、本許諾書の項目4.2, 5.2, 5.3で説明するようなものも製品の中に含まれるものとします。

☒ 同意します(A)
☐ 同意しません(D)

戻る OK キャンセル

4. 登録申請用ファイルが作成されます。

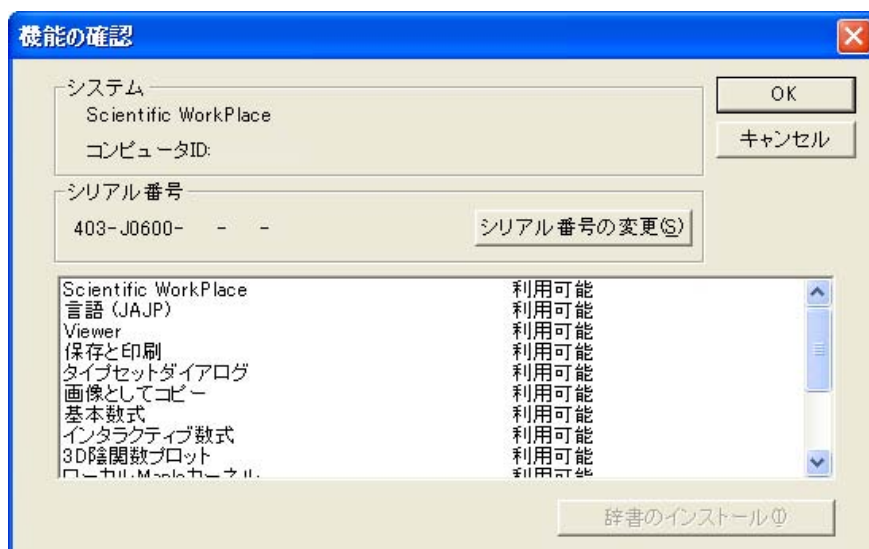


このダイアログボックスにあるメッセージにしたがって手続きを行ってください。

5. ライセンスファイルの取得は弊社が代行します。弊社テクニカルサポートからの返事にしたがってライセンスファイルを正しい位置に保存してください。

3.3 ライセンス状態の確認

ライセンスを登録し、ライセンスファイルが正常に取得または作成されると、インストールした製品の全機能が利用可能な状態になります。製品を起動し、「ヘルプ：機能の確認」を選択してください。ライセンスファイルを取得していない場合に比べてリストアップされる機能が増えています。



以上で SWP/SW/SN 本体のインストレーションは完了です。しかし SWP/SW の場合には、Win-Forme/p \LaTeX のインストール作業が残っていますので次に進んでください。欧文のタイプセットしか行わない場合、WinForme/p \LaTeX のインストールは省略できますが、動作確認作業がありますので、やはり次に進んでください。

4 タイプセット用環境設定と動作検証

L^AT_EX によるタイプセットは、英語文書の場合と日本語文書の場合で異なります。英語文書のタイプセットには TrueT_EX を利用します。一方、日本語文書のタイプセットには pL^AT_EX を利用します。最初に英語文書タイプセット機能の動作確認を行います。次に製品 CD-ROM に用意されている pL^AT_EX のインストールと動作確認を 19 ページ以降で説明します。

Note Scientific Notebook にタイプセット機能はありませんのでこの作業は不要です。

4.1 英語文書用環境設定と動作検証

英語文書タイプセット用の TrueT_EX に関し、設定環境の確認と動作検証を行います。

1. SWP または SW を起動します。
2. 「タイプセット：英語タイプセット：上級設定」を選択します。タイプセットオプション（英語）ダイアログボックスで次のタブの設定を確認します。

DVI フォーマット設定タブ	TrueT _E X MultiLingual
DVI プレビュー設定タブ	TrueT _E X Previewer

さらに PDF タイプセット用の設定を確認します。

PDF フォーマット設定タブ	TrueT _E X pdfT _E X MultiLingual
PDF プレビュー設定タブ	Acrobat

OK ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

Note セクション 1.1 に記載されている Adobe Acrobat あるいは Adobe Reader のインストールを事前に行わなかった場合、不適切なパス名称が登録されてしまうことがあります。この状態では PDF タイプセットが正しく行えません。対処方法については弊社 Web サイト：SWP/SW Better Use <http://www.lightstone.co.jp/products/swp/betteruse.htm> を参照ください。

3. 「ファイル：開く」を選択して、プログラムフォルダにある SWSamples フォルダから checkout.tex ファイルを選択します。
4. DVI ファイルへのタイプセット出力を実行するには「タイプセット：英語タイプセット：プレビュー」を選択します。コンパイルの経過を示す小さなダイアログが表示されます。コンパイルが終了すると、TrueT_EX Previewer に checkout.dvi ファイルが表示されます。

一方、PDF ファイルへのタイプセット出力を実行するには「タイプセット：英語タイプセット：PDF プレビュー」を選択します。コンパイルの経過を示す小さなダイアログが表示されます。コンパイルが終了すると、TrueT_EX Previewer が起動し、コンパイル結果を表示します。コンパイル結果を確認するには最小化されているウィンドウを通常の大きさにします。正常にコンパイルが終了しますと、このウィンドウの一番下に [pdfLaTeX finished] と表示されます。また PDF ビューワ（Adobe Reader）が起動し、checkout.pdf ファイルが表示されます。

5. TrueT_EX Previewer の「File：Print」を選択します。作成した DVI ファイルを印刷して、文字化けなどの問題が無いことを確認します。
- 一方、PDF ビューワ（Adobe Reader）については「ファイル：印刷」を選択します。作成した PDF ファイルを印刷して文字化けなどの問題が無いことを確認します。メニュー表記が異なる場合はお使いの PDF ビューワのメニュー表記に読み替えてください。

TrueT_EX Previewer の画面表示に問題がある場合は、PC のディスプレイドライバを更新してください。画面表示には問題が無く、印刷した場合に問題が発生する場合はプリンタドライバを更新してください。それでも問題が解決しない場合は、29 ページのテクニカルサポートまでご相談ください。お使いのディスプレイのディスプレイドライバおよびプリンタドライバに関してはそれぞれのメーカーに問い合わせてください。

4.2 日本語文書タイプセット用 p \LaTeX のインストール

SWP/SW を用いて日本語文書のタイプセットを行う場合、製品 CD より WinForme/p \LaTeX をインストールしていただく必要があります。既に SWP/SW の旧バージョンから、あるいは市販の書籍等から p \LaTeX をインストール済みといった状況も考えられますが、特段の事情がない限り、バージョン 5.5J の WinForme/p \LaTeX の御使用を推奨します。既存の p \LaTeX (バージョン 5.0J の WinForme/p \LaTeX を含む) をそのまま利用された場合、SWP/SW 側最新機能との間で不整合を生ずる可能性があるためです。

p \LaTeX というプログラムは同一 OS 環境内で一つしか存在できません。このため既に p \LaTeX が存在している場合には、それをまずアンインストールする必要があります。以下の手順で操作してください。新規に WinForme/p \LaTeX をインストールされる場合は 4.2.2 項に進んでください。

4.2.1 p \LaTeX のアンインストール

1. バージョン 5.0J WinForme/p \LaTeX からの移行

Windows のスタートメニューから「コントロールパネル:プログラムの追加と削除」を選択し、WinForme の削除を行ってください。なお、p \LaTeX がインストールされていたフォルダ (通常 c:\ptex) は形骸のみ残される結果となりますが、それはそのままにしておき、新たな WinForme (p \LaTeX , dviout も含む) を再度そこにインストールするのが賢明です。既存の p \LaTeX フォルダ内に種々のパッケージや文献目録用データベース等を独自に追加配置していた場合、それらの環境が自動的に引き継がれることになるからです。

2. バージョン 4.1J pLogViewer/p \LaTeX からの移行

Windows のスタートメニューから「コントロールパネル:プログラムの追加と削除」を選択し、pLogViewer の削除を行ってください。なお、p \LaTeX がインストールされていたフォルダ (通常 c:\ptex) 中に残されているユーザ固有のファイルについては個別に移行を検討する必要があります。

3. p \LaTeX 2 ϵ for Windows からの移行

乙部氏の書籍 p \LaTeX 2 ϵ for Windows に含まれていた CD から p \LaTeX をインストールされていた場合、該当の CD からインストーラを再度起動する形で p \LaTeX をアンインストールしてください。既存の p \LaTeX が検出された場合には、アンインストーラの機能が使えるようになります。

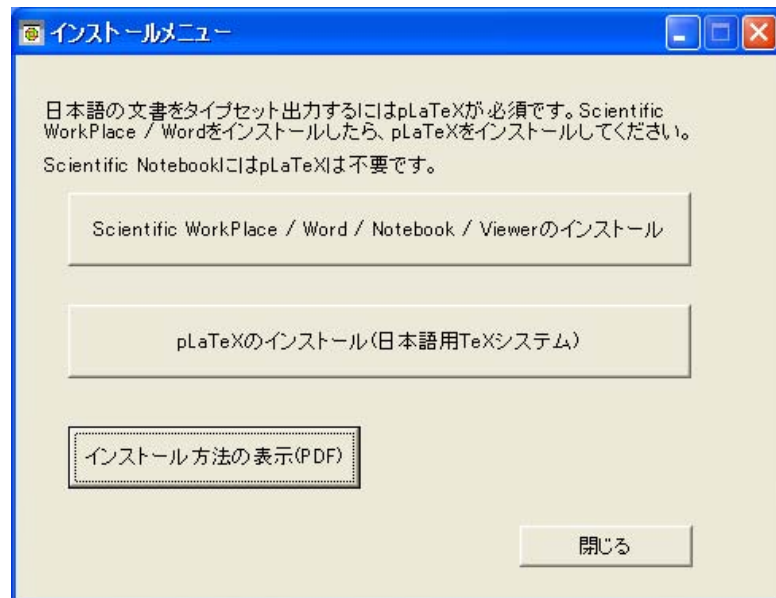
4. 手作業でのアンインストール

上記のいずれにも該当せず、かつ適切なアンインストーラが利用できない場合には、p \LaTeX や dviout のフォルダを手で削除するのみならず、Windows の環境変数を編集するといった操作が必要になります。詳細は弊社 Web サイト: SWP/SW Better Use <http://www.lightstone.co.jp/products/swp/betteruse.htm> を参照ください。

4.2.2 p \LaTeX のインストール

ここでは WinForme, p \LaTeX , dviout のインストールを行います。

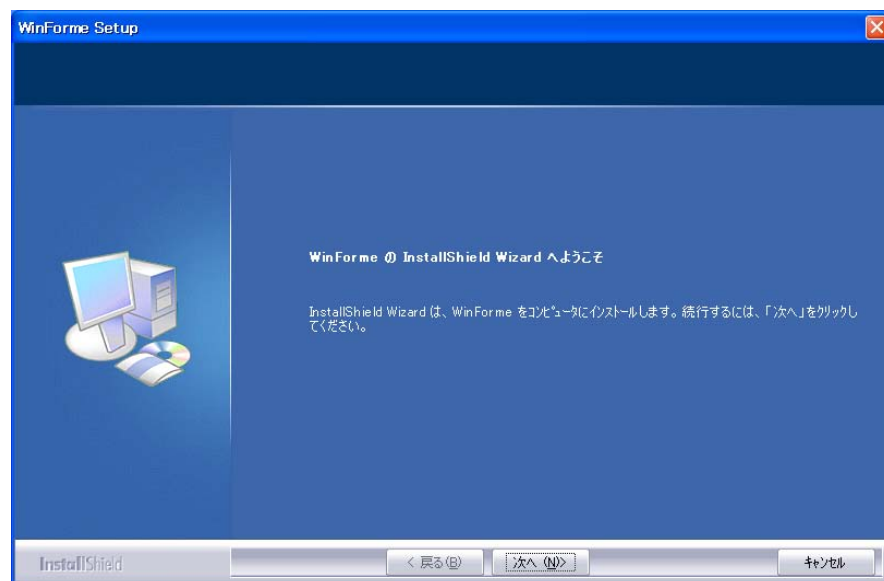
1. 2 ページと同じ方法でインストールメニューを表示します。3 番目の p \LaTeX インストールの説明がある欄のインストールボタンをクリックします。



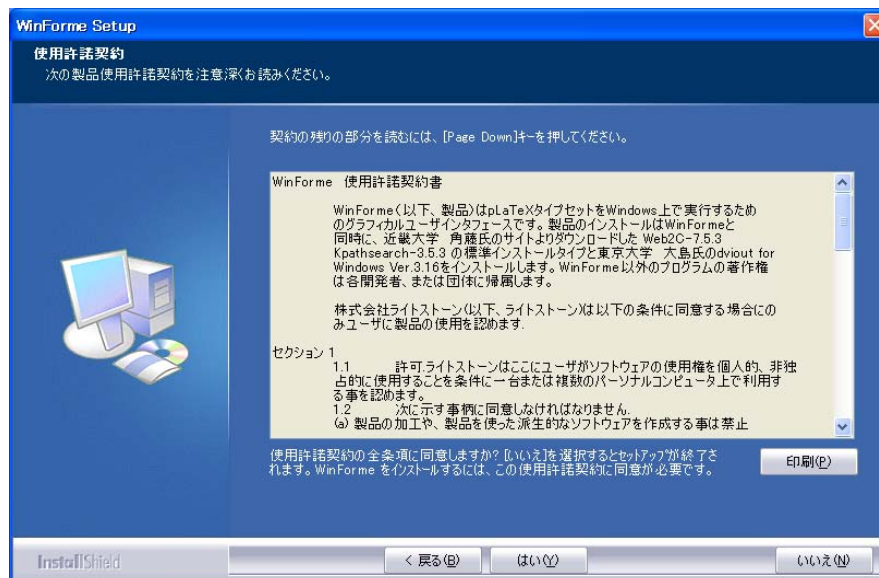
Note WinForme とは Windows 上で p \LaTeX を起動し、文書をタイプセットするためのユーザインターフェイスです。p \LaTeX のエラーメッセージやログを確認する際に利用します。また \TeX ファイルのタイプセット出力結果である DVI ファイルの表示、DVI ファイルから PS ファイルへの変換および DVI ファイルから PDF ファイルへの変換なども可能です。WinForme の使用方法に関しては `c:\ptex\manual` フォルダにある `WFmanual.pdf` ファイルを参照してください（デフォルトの設定でインストールした場合の場所です）。

2. 初期画面

インストーラが起動したら、最初のダイアログボックスで「次へ」のボタンをクリックします。

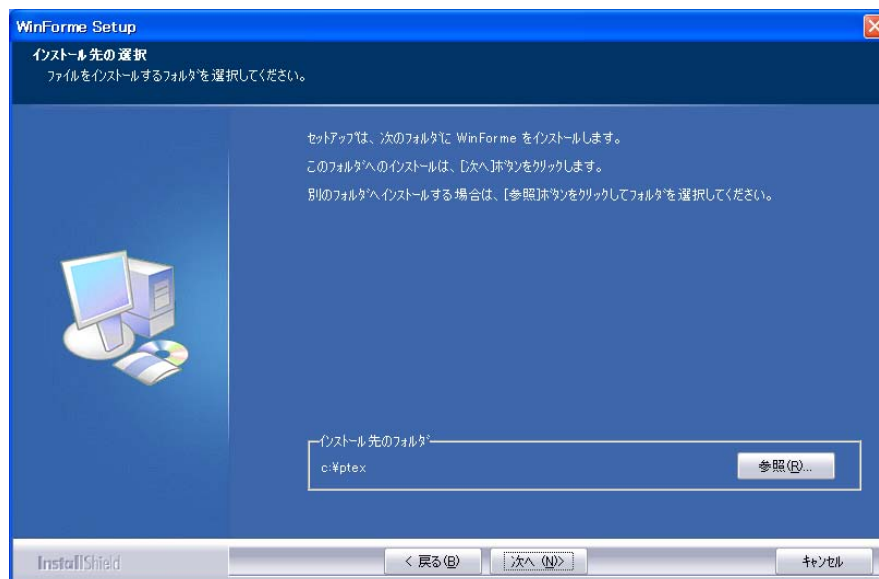


3. インストールされる p^LA_TE_X システムと dviout のリリース情報, WinForme の使用許諾条件の画面が表示されます。「はい」ボタンをクリックして次の画面へ進みます。



4. インストールフォルダの選択

p^LA_TE_X のインストール先フォルダを指定します。通常はデフォルトのまま `c:\ptex` とします。



Note p^LA_TE_X のインストールフォルダとして、「デスクトップ」や「マイ ドキュメント」、「Program Files」などを選択することはできません。日本語のフォルダ名や、英数字であってもフォルダ名の途中に「スペース」が存在するようなフォルダにはインストールしないでください。インストール自体は正常に終了しますが、p^LA_TE_X は正常に動作しません。T_EX システムで利用可能なフォルダ名およびファイル名は半角英数字のみです。また半角スペースを含めることはできません。

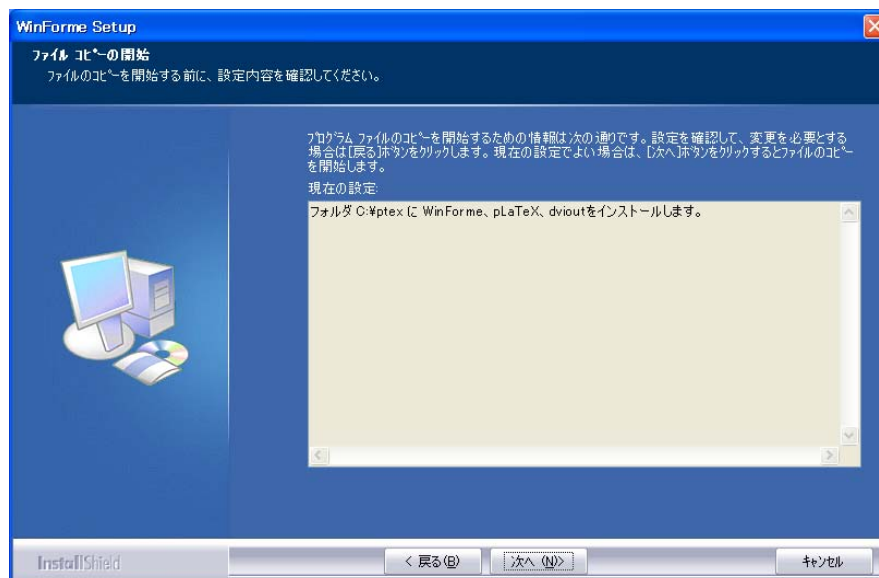
5. プログラムフォルダの選択

このダイアログボックスでは、Windows のスタートメニューにあるプログラムへ登録するフォルダ名を入力します。基本的にはデフォルトのまま「次へ」ボタンをクリックします。実際のインストールが開始されます。



6. インストールされるファイルの内容

このインストールプログラムによってインストールされるファイルの内容を表示します。このダイアログボックスで「次へ」ボタンをクリックすると、プログラムのインストールが開始されます。



7. インストールの完了

インストールが完了すると、PC の再起動を確認するダイアログが表示されます。画面の指示に従って操作し、PC を再起動してください。

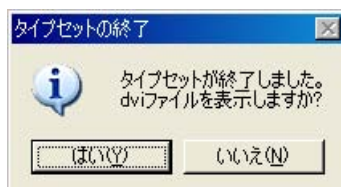
4.3 WinForme, p \LaTeX の動作確認

ここではまず p \LaTeX を SWP/SW とは切り離れた形で実行し、その動作を検証します。SWP/SW と連携した形での動作検証はセクション 4.5 で説明します。

Windows のスタートメニューのプログラムから WinForme フォルダを選択し、WinForme を選択します。WinForme は p \LaTeX を GUI 形式で起動するためのプログラムです。PC に Adobe Systems 社の Adobe Distiller がインストールされていれば、 \TeX ファイルから PDF ファイルを作成できます。

Note このセクションで初めて dviout を起動する場合は dviout の初期設定が必要です。24 ページに記されている「dviout の初期設定」を実施してください。

サンプルファイルを利用して動作確認を行います。「ファイル: タイプセット」を選択します。c:\ptex フォルダにある samples フォルダから wftest.tex を選択します。タイプセットが終了しましたら次のメッセージが表示されます。ここで「はい」ボタンをクリックすると作成した DVI ファイルを表示します。「いいえ」ボタンをクリックしてあとから「表示: DVI ファイル」を選択して DVI ファイルを表示することもできます。



このサンプルファイルをタイプセットできない場合は、29 ページのテクニカルサポートまでご連絡ください。

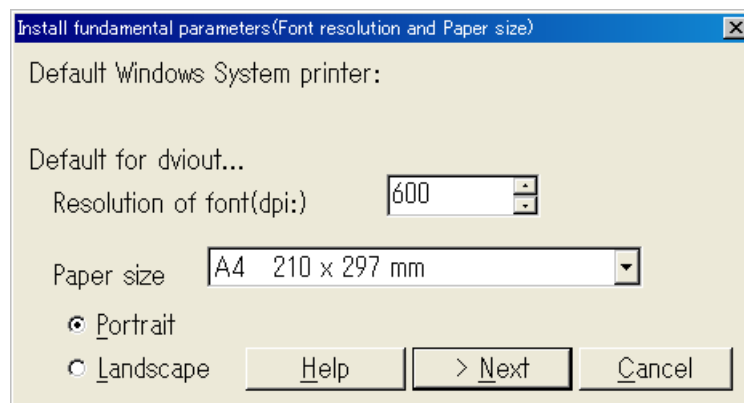
Note samples フォルダ中には EPS 形式の画像データを含んだ wfeps.tex というテスト文書も含まれていますが、SWP/SW インストール作業とは直接絡まないため、ここでは省略します。dviout で EPS データを扱うためには Ghostscript というプログラムのインストールも必要となるため、SWP/SW インストールとは切り離して作業を行う方が無難です。作業手順については弊社 Web サイト: SWP/SW Better Use <http://www.lightstone.co.jp/products/swp/betteruse.htm> を参照ください。

4.4 dviout の初期設定

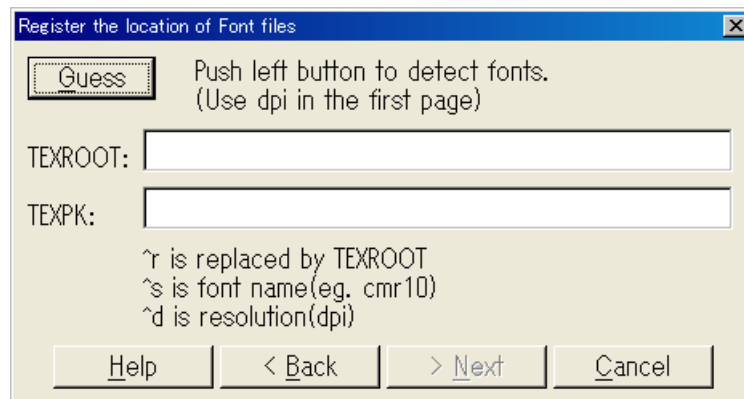
1. dviout を初めて起動すると次のメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックします。



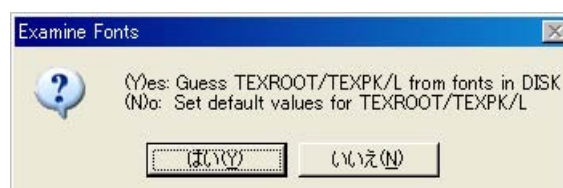
2. Font resolution and Paper size ダイアログボックスでは解像度を設定します。お使いのプリンタの解像度と同じ解像度を設定してください。他の設定はデフォルトで構いません。設定が終了しましたら「Next」ボタンをクリックします。



3. Register the location of Font Files ダイアログボックスではフォントの設定を行います。

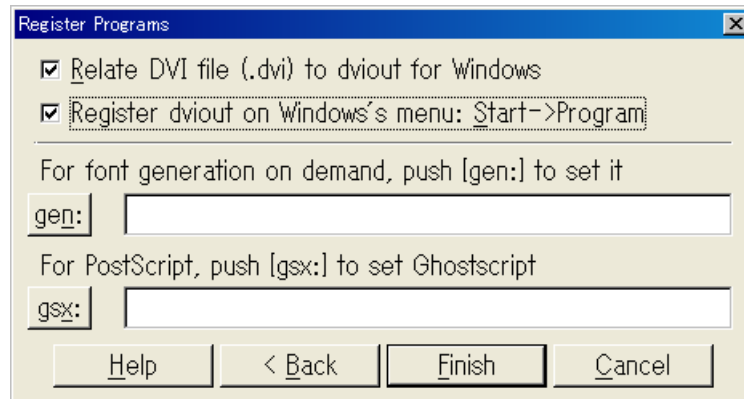


- (a) 「Guess」ボタンをクリックします。
- (b) 次のメッセージが表示されますので、「いいえ」ボタンをクリックしてデフォルトの値を設定します。



- (c) 「Next」ボタンをクリックします。

4. Register Programs ダイアログボックスでは DVI ファイルを dviout に関連付けたり、Windows のスタートメニューにあるプログラムへの登録などができます。



- (a) DVI ファイルを dviout に関連付けるには、Relate DVI file(.dvi) to dviout for Windows にチェックを付けます。日本語文書を主に扱われるユーザはこのチェックを付けることを推奨します。

Note .dvi ファイルを欧文用の TrueTeX と結び付ける操作については 10 ページを参照ください。

- (b) WinForme のプログラムフォルダとは別に、dviout 独自のプログラムフォルダを Windows のスタートメニューに登録するには、Register dviout on Windows's menu: Start->Program にチェックを付けます。このチェックを付けると WinForme フォルダとは別に dviout フォルダが登録されます。2 重に存在することになりますので弊社ではチェックを外すことを推奨します。
- (c) フォントの自動生成機能を有効にするには、「gen:」ボタンをクリックします。次のメッセージが表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。



- (d) Ghostscript をインストールしてある場合、「gsx:」ボタンをクリックして Ghostscript を dviout に登録することができます。このボタンをクリックすると次のメッセージが表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。



Note Ghostscript のインストールを別途予定されている場合、ここの操作は「いいえ」としておいてください。Ghostscript や Susie Plug-in といった画像関連プログラムのインストールとそれに伴う dviout の設定については、弊社 Web サイト：SWP/SW Better Use <http://www.lightstone.co.jp/products/swp/betteruse.htm> を参照ください。

4.5 Scientific WorkPlace / Scientific Word と p \LaTeX の連携

ここでは SWP/SW と p \LaTeX を連携させて日本語文書を作成できるかどうかを検証します。

1. SWP または SW を起動します。
2. 「タイプセット：日本語タイプセット：上級設定」を選択します。タイプセットオプション（日本語）ダイアログボックスで次のタブの設定を確認します。

DVI フォーマット設定タブ	p \LaTeX
DVI プレビュー設定タブ	dviout

さらに PDF タイプセット用の設定を確認します。

PDF フォーマット設定タブ	dvipdfmx
PDF プレビュー設定タブ	Acrobat

Note dviout, p \LaTeX のパスはデフォルトで各々次のように設定されています。

C:/ptex/bin/dviout/dviout.exe

C:/ptex/bin/platex.exe

デフォルトとは異なるフォルダに p \LaTeX をインストールした場合（例えば D ドライブや C:\user など）は、追加/編集ボタンをクリック後、ブラウズボタンを操作してパスを編集します。またその場合は「タイプセット：一般的な設定」を選択し、Bib \TeX オプション（日本語）の設定も同じように変更します。製品 CD-ROM からの p \LaTeX のインストールをデフォルトの設定のままインストールした場合、これらの設定の変更は必要ありません。

Note 1.1 項に記載されている Adobe Acrobat あるいは Adobe Reader のインストールを事前に行わなかった場合、不適切なパス名称が登録されてしまうことがあります。この状態では PDF タイプセットが正しく行えません。対処方法については弊社 Web サイト：SWP/SW Better Use <http://www.lightstone.co.jp/products/swp/betteruse.htm> を参照ください。

OK ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

3. 「ファイル：開く」を選択して、プログラムフォルダにある SWSamples フォルダから jcheckout.tex ファイルを選択します。
4. jcheckout.tex ファイルをタイプセットプレビューする前に、「ファイル：名前を付けて保存」を選択します。ファイルの種類を「Portable LaTeX (*.tex)」に変更、さらにキャラクタセットとしては Japanese(Shift-JIS) を指定してファイルを保存します。日本語の文書をポータブル \LaTeX 形式で保存する理由は次の「日本語文書のタイプセット時の注意」に記載されています。
5. DVI ファイルへのタイプセット出力を実行するには「タイプセット：日本語タイプセット：プレビュー」を選択します。コンパイルの経過を示す小さなダイアログが表示されます。コンパイルが終了すると dviout に、タイプセットの結果生成された jcheckout.dvi ファイルの内容が表示されます。dviout の起動がはじめての場合は dviout の初期設定が必要になりますので、24 ページの「dviout の初期設定」を参照してください。続いて dviout の「File：Print」を選択します。作成された DVI ファイルを印刷して、文字化けなどの問題が無いことを確認してください。

一方、PDF ファイルへのタイプセット出力を実行するには「タイプセット：日本語タイプセット：PDF プレビュー」を選択します。コンパイルの経過を示す小さなダイアログが表示されます。PDF ビューワ（Adobe Reader）が起動され、タイプセットの結果生成された jcheckout.pdf ファイルが表示されます。続いて PDF ビューワ（Adobe Reader）の「ファイル：印刷」を選択します。作成された PDF ファイルを印刷して、文字化けなどの問題が無いことを確認してください。

dviout の画面表示に問題がある場合は、PC のディスプレイドライバを更新してください。画面表示には問題が無く、印刷した場合に問題が発生する場合はプリンタドライバを更新してください。それでも問題が解決しない場合は、29 ページのテクニカルサポートまでご相談ください。お使いのディスプレイのディスプレイドライバおよびプリンタドライバに関してはそれぞれのメーカーに問い合わせてください。

4.6 日本語文書のタイプセット時の注意

4.6.1 保存形式について

欧文書用のドキュメントシェル（例えば `article` 等）をベースに文書を作成した場合、文書の保存形式は「`SW/SWP/SN Document (*.tex)`」がデフォルトとなります。この形式の場合、`SWP/SW` 固有の \LaTeX コマンド（ \LaTeX マクロ）が有効な状態で文書が保存されるため、一般の \LaTeX システムでは文書が扱えなくなります。

一方、日本語文書用のドキュメントシェル（例えば `jarticle` 等）をベースに文書を作成した場合、文書の保存形式は「`Portable LaTeX (*.tex)`」がデフォルトとなります。日本語文書の保存に際して `SWP/SW` 形式を指定すると \LaTeX でタイプセットできなくなるのでご注意ください。

4.6.2 文字コードについて

`SWP/SW` バージョン 5.0J で日本語文書を作成した場合、たとえ `Portable LaTeX` 形式で文書を保存しても、オリジナルの \TeX 文書自体はユニコードで生成されるため、一般の \LaTeX システムでは扱えず、シフト JIS コードを用いた \TeX 文書（文書名の末尾に“JIS”という文字が付加されます）が別に生成されるという方式がとられていました。しかもそれはタイプセットというプロセスを経ないと生成されませんでした。

これに対しバージョン 5.5J では文書の保存に際して文字コードの指定が行えます。このため `Japanese (Shift-JIS)` を指定して保存操作をするだけで、オリジナルの \TeX 文書自体がシフト JIS コードで生成されます。従来 `SWP/SW` はシフト JIS の \TeX 文書を読み込みませんでしたが、バージョン 5.5J ではこの点も改善されています。

4.6.3 既存の `SWP/SW` 文書の扱い

従来のバージョンを用いて作成された日本語 \TeX 文書をバージョン 5.5J でタイプセットする場合には、一旦 `Portable LaTeX` 形式、`Japanese(Shift-JIS)` を指定して文書の保存操作を行ってください。これは \LaTeX にユニコードのまま文書が引き渡されてしまうのを避けるための措置です。

5 追加情報

5.1 BaKoMa TrueType フォントの不具合

Windows XP および Windows 2000 SP4 では BaKoMa TrueType フォントに問題があります。詳しくは <http://argent.shinshu-u.ac.jp/otobe/tex/book/WinXP.html> を参照してください。こちらからダウンロードできる Windows Installer ファイル (FixBKM.msi) をインストールすればこの問題は修正されます。該当する OS をお使いの方は上記のウェブサイトの情報をよく読み、フォントの不具合を修正することを推奨します。

5.2 WMF2EPS

5.5J ではポータブル \LaTeX 形式でファイルを保存する際に、WMF ファイル (Windows メタファイル) を EPS ファイル (Encapsulated PostScript ファイル) へと自動的に変換する WMF2EPS というユーティリティをプログラムと連動させるオプションがあります。この機能により、文書中に作成した WMF 形式のプロットやインポートした WMF ファイルを自動的に EPS 形式に変換します。文書中でのファイル名も `abcde.wmf` から自動的に `abcde.eps` に変換されます。WMF2EPS の設定方法は次のウェブサイトをご参照ください。

<http://www.lightstone.co.jp/products/swp/wmf2eps.htm>

6 テクニカルサポート

このインストールガイドを読み終わりましたら、いよいよ論文や書籍原稿などの文書作成に取りかかります。次の手順で操作方法を学習すると、より効率的です。

1. *Getting Started* マニュアルにしたがって操作し、基本機能を理解する。
2. ウェブサイト <http://www.lightstone.co.jp/products/swp> のダウンロードから解説本「*Creating Articles and Books with Scientific WorkPlace and Scientific Word*」(PDF ファイル) をダウンロードし、学習する。
3. 製品の使い方や設定方法に関するノウハウを弊社 Web サイト:SWP/SW Better Use <http://www.lightstone.co.jp/products/swp/betteruse.htm> に集積していますので参考にしてください。

テクニカルサポートは E-mail, 電話, FAX にて受け付けています。現象の確認や解決のためにファイルが必要となる場合、E-mail にてご相談ください。お問い合わせの際は出来るだけ、細かくトラブルの内容やご要望をお伝えください。現象を再現して問題を確認する必要がありますので、どうぞご協力ください。電話にてご相談の際は、製品を操作できる場所からご連絡ください。

テクニカルサポートへお問い合わせの際は、次の情報をご提供してください。

- 製品名
- 製品のバージョンとビルド番号（ヘルプ：バージョン情報）
- シリアル番号（ヘルプ：機能の確認）
- お使いの Windows のバージョン
- ネットワークカードを含むハードウェアの構成
- どんな操作をした時に、どのような現象が発生するのかをまとめたメモ
- メッセージが表示される場合は、そのメッセージ

連絡先

株式会社ライトストーン
<http://www.lightstone.co.jp>
E-mail アドレス: tech@lightstone.co.jp
TEL:03-5670-0302
FAX:03-5670-0311

対応時間は平日の午前 10 時から午後 5 時までです（祭日は除く）。

〒124-0023

東京都葛飾区東新小岩 3-4-16

ベルノス 34 2F